

■浚渫の影響評価 ～ハビタット区分の検討及び指標種の選定～

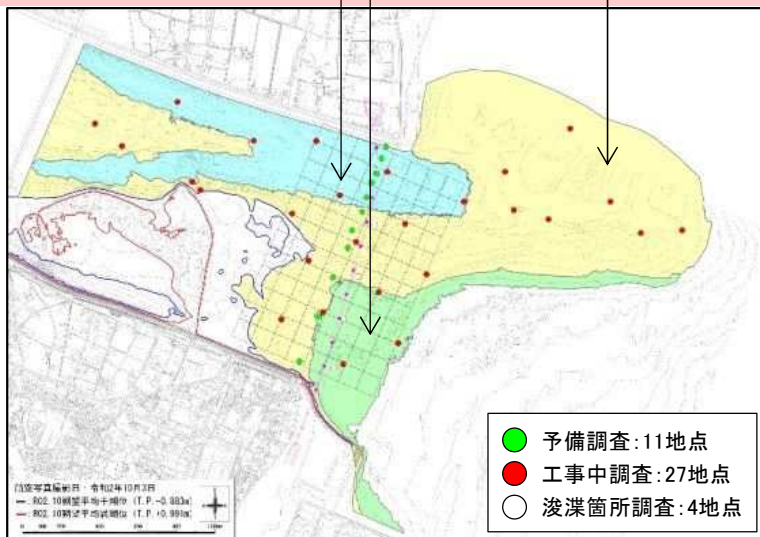


ハビタット区分の検討及び各ハビタット区分における指標種を示す。

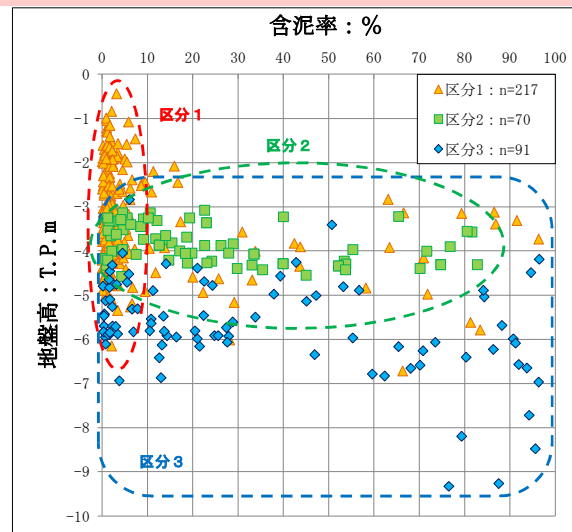
■ハビタット区分の検討

- 調査地点の粒度組成に着目し、以下の3区分に設定。

- 区分1：河口干潟東部～河口テラス
 - 常に砂質である一帯
- 区分2：右岸沖浜
 - 泥混じりの砂質の状態が安定している一帯
- 区分3：左岸みお筋
 - 出水等によって底質が攪乱されやすい一帯



※R1.6月調査より格子外調査地点B-13を追加



■各ハビタット区分における指標種の選定

区分	選択した指標種	生息評価モデル
区分1	3種：フジノハナガイ、バカガイ、ヒサシソコエビ科	地盤高のみ
区分2	2種：チヨノハナガイ、シノブハネエラスピオ	選好度モデル(地盤高&含泥率)
区分3	3種：カタマガリギボシイソメ、オウギゴカイ、シノブハネエラスピオ	選好度モデル(地盤高&含泥率)

指標種の選定ルール
(第6回検討会)

①過去の調査で連続して出現しており、個体数が多い種
※R2時点で計14回の調査が行われており、連続出現しない種が増加したため、出現回数と個体数が多く、過去に検討を行っている種を選定した

②種名が同定されている種
※ヒサシソコエビ科は本調査で一科一属のため抽出の対象とした

